

# 養護研だより

川崎市小学校教育研究会  
養護研究会会報  
発行日 令和5年12月6日

昨年度に引き続き、特別活動研究会と合同で、10月18日(水)に鷺沼小学校と川崎小学校で授業研究会を行いました。合わせて176名の参加があり、授業参観は、教室での15分間と、別会場でのオンライン参観を組み合わせで行いました。協議会は、川崎小学校では3つの分科会での協議後に全体協議会を、鷺沼小学校では GIGA 端末のジャムボードを活用しながら全体協議会を進めました。

特別活動研究会との合同開催を通して、授業づくり、指導案検討、ティームティーチングの進め方、協議会の運営や進行などの学びを深められました。ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

川崎市立下河原小学校 菊地美和子

2年 学級活動

題材「正しい手あらいで 元気な体」

学級活動 (2) ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

川崎市立鷺沼小学校 漆島 太一教諭(T1) 今井 麻里好養護教諭(T2)

## 【本時の流れ】

《つかむ》手洗いについてのアンケート結果から、子どもたちが自分たちの手洗いの実態と課題を把握した。

《さぐる》担任と養護教諭の手洗いを比べ、正しい手洗いの仕方やタイミングを考えた。

《見つける》正しい手洗いをするのよさや、どんなことを大切に手洗いするのよさを考えた。正しい手洗いのよさでは「風邪・病気になりにくい」「健康につながる」、大切にすることで「泡をつけて長い時間洗う」「ハンカチを持ってきてしっかり拭く」「タイミングを大切にする」などの考えが出た。

《決める》一人一人めあてカードにめあてを書いた。

【研究協議】ジャムボードを使用しながら全体で協議を行った。

- ・暖かな雰囲気があり、つぶやきがしやすい授業だった。
- ・子どもたちとの信頼関係を感じた。クラスが安心して発言できる環境だと感じた。
- ・子どもたちがいい顔をしている。発言する子の顔を優しい目でみんなが見ている様子がすてきだった。
- ・導入で実態を把握したアンケートはよかった。
- ・2つの手洗い例の比較、視覚的に提示していてよかった。
- ・手洗いの比較の動画、手元だけでもよかったのではないかな。
- ・子どもたちが手洗いチェッカーを使用すると時間がかかり、考えたりする時間が減ってしまう。本日の授業は、考えたことを伝え合ったり、自分事として考えたりする授業でよかった。
- ・子どもたちの言葉でめあてを作っていくとよかったのではないかな。
- ・「手洗いをするとうんないいことがあるか」「どんなことを大切に手洗いしたらいいか」の2つのポイントがあったが、自分のこととして、明日からどうしていくかというめあてが立てられたか。



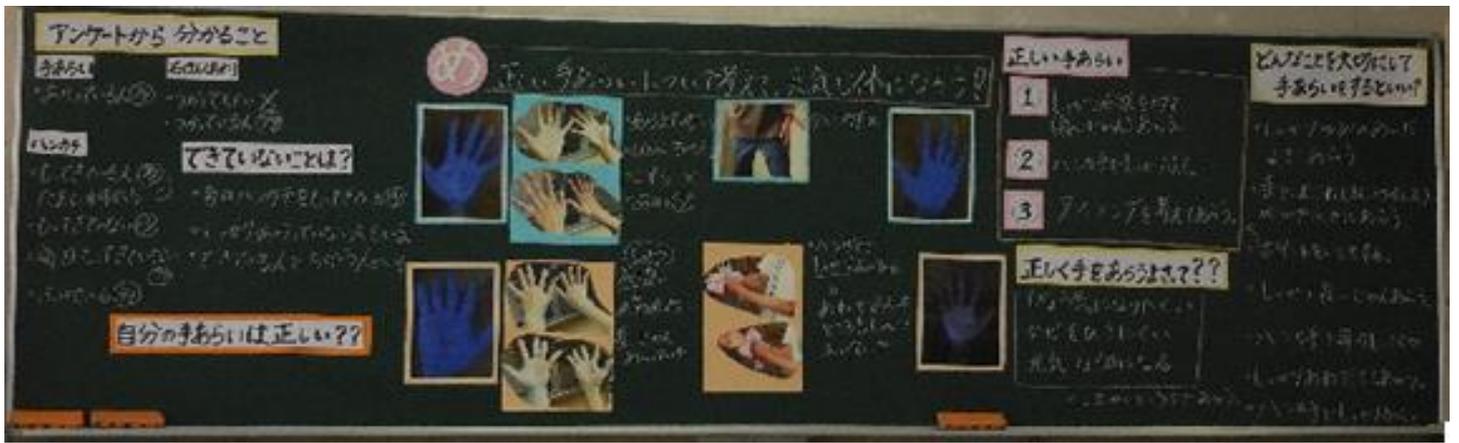
- 「一回の手洗いで丁寧に洗う。風邪引かないようにする。」などのめあてが立てられていた。
- ・事後の指導のめあてカード、小さくして机に貼り、目に付きやすくするのはどうか。
- ・一人ひとりのめあてを互いに見られるとクラスで繋がりができるといいと思う。可視化して、クリアファイルに入れたり、机に貼ったりできるとよいのではないかな。
- ・「ちゃんと」「しっかり」といったあいまいな言葉ではなく、具体的な表現が必要だと思う。
- ・3年の体育の保健学習につなげていけるとよい。
- ・マイナス面から始まる保健の授業ではなく、いいところを伸ばそうといった方向がよいのではないかな。
- ・T1・T2の役割分担について、本来は担任がT1で授業を進め、子どもたちの意見集約も担任の役割だが、お互い授業を進めていない時は板書するなどして協力して進める形をとった。
- ・担任が伝えきれない部分を、養護教諭が伝えていく。専門性。
- ・ハンカチは保護者が用意することも多い。保護者に伝える工夫が必要だと思う。
- ・家庭が深く関わってくる授業は、家庭へとの連携が必要だと思う。

### 【指導講評】総合教育センター カリキュラムセンター 指導主事 野口 裕子様

- ・昨年度からコラボで授業をさせていただいて、養護教諭もとても心強い、大変勉強になる。
- ・体育・健康に関する指導は、保健教育、安全教育、食育が柱となる。保健教育をどのように推進していくか、各学校で組織的、計画的に推進していく必要がある。
- ・良かった点、3つのポイントを繰り返し話していたこと。子どもたちの発言がたくさん出ていた。思考が切れ目なく続いていた。3つ目のポイントがなかなか出ないところを担任がうまく引き出し、担任が子どもの意見も否定しないでうまく転換していた。動画とスライドを活用し教材の工夫がされていてよかった。話し合い活動がたくさんあった。T1T2の役割分担がいいバランスだった。
- ・学級経営が素晴らしい。時間管理ができていた。養護教諭が終始笑顔で授業していたのがとても良かった。
- ・指導の工夫・保健教育は教科横断的に行っていく。体育(保健)と連携し、保健でやっている内容とかぶらないように、教科で何を学んでいるのか確認して行うことが大事。
- ・養護教諭が参加する意義・保健室に来室する児童と教室での児童の姿をみる。集団指導から個別指導につなげていく。
- ・健康教育の充実のためには、全職員の協力の下、家庭を巻き込んで行う。継続して計画的に推進していくこと。子どもたちの健康のために健康教育に取り組んでほしい。

### 【指導講評】特別活動研究会 会長 王禅寺中央小学校 校長 小堤 紀子様

- ・コラボ、それぞれの役割を大事にしている。担任が主体となって、ここぞというところで養護の先生から専門性のある話をしてもらっていた。
- ・授業を見る視点・指導案・子どもの姿・教師の助言・教室環境
- ・掲示物の意義 学級目標 所属感を高める役割分担 学習の継続性がわかる。
- ・ブラックライトを使用しての活動は時間がかかるが、今回は話し合いの時間が確保できていた。
- ・黒板の有効活用・資料の提示の仕方 バッチリだった。
- ・子どもたちが安心して授業を受けている姿がよかった。
- ・学校の価値は集団活動をすること、みんなで協力しておこなうこと。学級活動の目標は、最終的にみんなはどうしていくのかということ、具体的な言葉かけが大事。
- ・つきたい力は、自己管理・正しい知識・健康安全を意識した行動・人間関係形成・社会参画・自己実現
- ・養護の先生が来てくれて、子どもたちがしっかり聞こうと思いついて聞いていた。
- ・事後指導は、家庭 ふりかえり1週間カードで。少したったら思い返してみる。
- ・先生たちの関わりがよかった。一日一日の積み重ねが大事なのだと感じた。



4年 学級活動 題材「自分の生活見直し隊!~すいみんについて考えよう~」

学級活動 (2) ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

川崎市立川崎小学校 鈴木 雄大教諭(T1) 林 由記総括養護教諭(T2)

### 【本時の流れ】

《つかむ》アンケート結果から「なぜ良く寝ているのにすっきりしないのか」という問題点に気づき解決への見通しをもった。

《さぐる》睡眠の問題点を出し合い、養護教諭から助言をもらい睡眠の量や質の大切さについて考えた。

《見つける》良い睡眠をとるためにリラックスするようにする、体を休み時間動かしてよく眠るようにするという事に気が付いた。

《決める》オクリンクを活用し、友達の見解を参考にして目標を決めた。

### 【研究協議】分科会后、全体会を行った

#### Aグループ

- ・養護の専門的な話がたくさん聞いて良かった。担任と養護の授業連携がよくできていた。
- ・児童から「ガムを噛んでリラックスしている」という発言に対して「歯磨き」が大切と養護教諭が伝えた時に、専門家ならではの発言で良かった。
- ・保護者の協力については授業参観や授業予告を利用し、さらに授業後の「学級だより」や「保健だより」などで授業に触れることで連携をとっている。

#### Bグループ

- ・養護教諭に授業の入り方について講義方式ではなく予測できない子どもたちの質問にたくさん答えていて良かった。
- ・オクリンクの課題として時間がかかることが考えられる。しかしメリットは字を書くのが苦手な児童も参加できるということがあげられた。
- ・睡眠の質の向上に焦点をあてるのであればリラックス方法という言葉が児童の中で広がり過ぎたのではないかと感じた。

#### Cグループ

- ・普段の学級経営の素晴らしさがわかる授業であった。養護教諭の話聞く時の児童の姿勢や顔がとてもいきいきしていた。
- ・朝日を浴びることは児童からの発言では出しにくく難しかったことを養護教諭から伝えられて良かった。
- ・導入で子どもの心を揺さぶってから専門家の養護教諭にバドンタッチしたいという担任の思いが伝わった。



### 【指導講評】川崎市教育委員会 健康教育課 指導主事 築部 めぐみ様

- ・学級の様子で伝え合う雰囲気、発言する人の方向に体の向きを変える、つぶやきの多さ、「静かにしてー」などの声を掛け合うことができていた。学級が、児童にとって安心できる環境なのだと感じた。
- ・養護教諭が登場した時に子どもたちの背筋が整い表情がキラキラ輝いていた。

- ・睡眠不足は国民全体の健康課題である。食事、運動、睡眠の3つの生活習慣の中でも、睡眠は、今まであまり重要視されてこなかった。睡眠不足は、うつや病気、脳の発達などに影響することも、最近の研究で明らかになっている。大切なことは、正しい情報を知り、実践していくことである。
- ・睡眠は小学校高学年から問題になることが多いので、4年生で睡眠についての授業をすることはタイムリーであった。
- ・導入のアンケートで「スッキリ」or「眠い」のグラフで「えー」と声が上がった。子どもたちが睡眠の課題を「自分ごと」として捉えた瞬間だった。
- ・「このクラスは、ほとんど眠いから健康ではない」という児童の発言から、「ではどうすればいいの?」という課題解決策を考える取組につながった。
- ・友達の考えを聞くことで自身の思考が広がっていることもわかった。今回の授業実践は特別活動の趣旨を網羅している。
- ・一つ課題をあげるなら、寝るまえにリラックスするための方法について、子どもたちが正しく理解できるよう、いくつか例示があるとよかった。
- ・保健室には健康診断や来室記録などの保健に関するデータがあり、集団や個として健康課題を分析することができる。今日の集団指導の実践については、個別に声かけをし、来室対応時の保健指導に活かしていきたい。

### 【指導講評】 総合教育センター カリキュラムセンター 指導主事 下村 智英様

- ・本日の授業実践を参考にして、各校の実態に応じた実践に繋げてもらいたい。
- ・T.T (team-teaching) では、担任と養護教諭と一緒に連携して授業を行うことが大切である。
- ・学級活動の学習は、意思決定と実践が大切であり、学習の過程については、学習指導要領などの資料が参考になる。「事前の指導」で学級の課題に気づき「事後の指導」で実践につなげていく。
- ・睡眠時間について9時間寝ればよいと子どもが言っていた。4年保健の教科書には児童が必要とする睡眠時間(9時間～11時間)の記載がある。
- ・導入で、子どもたちにアンケート結果を予想させるような問いかけをしていた。一人ひとりが自分事として考えることができ、つかみがよくできていたと思う。また、資料が精選されていたのもよかった。
- ・解決方法を考える場面で、児童が「TV が見たいのにやめられないのはどうしよう」という発言があった。この時、担任から「小さな目標を作ってみてはどうか」と一人ひとりに応じた適切な声掛けがされていた。日頃の児童の様子を知る担任だからこそ、個に応じた声掛けができる。今後も大切にしてもらいたい。
- ・授業をしていると、ついつい予定していた説明を飛ばしてしまったり、掲示し忘れたりすることがある。(特に多くの方が見ている研究授業では、緊張から起こりがち)このようなときにも、T.T なら互いをフォローし合うことができる。今回もそのような場面があった。また、児童の思考を深めたり、好ましくない意思決定になる可能性がある場合、養護教諭の専門的知識で追加の説明を加えたりすることもできる。授業後半、児童の「寝る前もガムを噛む」の意見について、養護教諭から「歯磨きをしてすっきり寝る」ことの大切さを説明していたこともよかった。
- ・今回の授業は板書の左で学級の実態をつかみ、真ん中で原因を追求し、右で解決方法の意思決定となっていた。さらによくするために、「自分は何が原因で眠いのか」ということを考える時間があるとよい。この思考があることで、自分に合う解決方法を考えることにつながる。

